

熊本地域乗合バス事業共同経営 に関する状況報告

(2023年6月)

共同経営推進室

室長 高田 晋

1 共同経営計画について

2 路線バス利用者増に向けた取組実施及び推進

- ・ （通勤）セミコンテクノパーク通勤バス実証実験
- ・ （通学）高校入学説明会でのバスPRや通学相談対応
- ・ （私用）子ども無料（大人100円）の日と熊本市無料の日
- ・ （高齢者）おでかけ促進会の開催

3 共同経営推進室 2023年度事業について

1 共同経営計画第1版の概要

2

申請者

- | | |
|----------------|----------------|
| (1) 九州産交バス株式会社 | (4) 熊本バス株式会社 |
| (2) 産交バス株式会社 | (5) 熊本都市バス株式会社 |
| (3) 熊本電気鉄道株式会社 | |

計画区域・対象路線

複数のバス事業者が重複して運行する代表4区間＋効率化で生じた余剰の充当先（熊本駅周辺の開発の対応） ※右図参照

共同経営の概要

①旧3号線方面の最適化〈植木・山鹿方面〉

重複路線の見直し、待ち時間の平準化、系統移譲に伴う定期券の継続措置、熊本駅方面の路線延伸（余剰の充当）

②川尻市道方面の最適化〈川尻・松橋方面〉

重複路線の見直し、待ち時間の平準化

③産業道路・国体道路方面の最適化〈長嶺方面〉

重複路線の見直し、待ち時間の平準化、系統移譲に伴う定期券の継続措置

④旧57号線方面の最適化〈楠・大津方面〉

重複路線の見直し、待ち時間の平準化、2社共通の乗継割引、熊本駅方面、武蔵ヶ丘・光の森方面の路線延伸（余剰の充当）

共同経営の目標

①収益性・効率性の向上

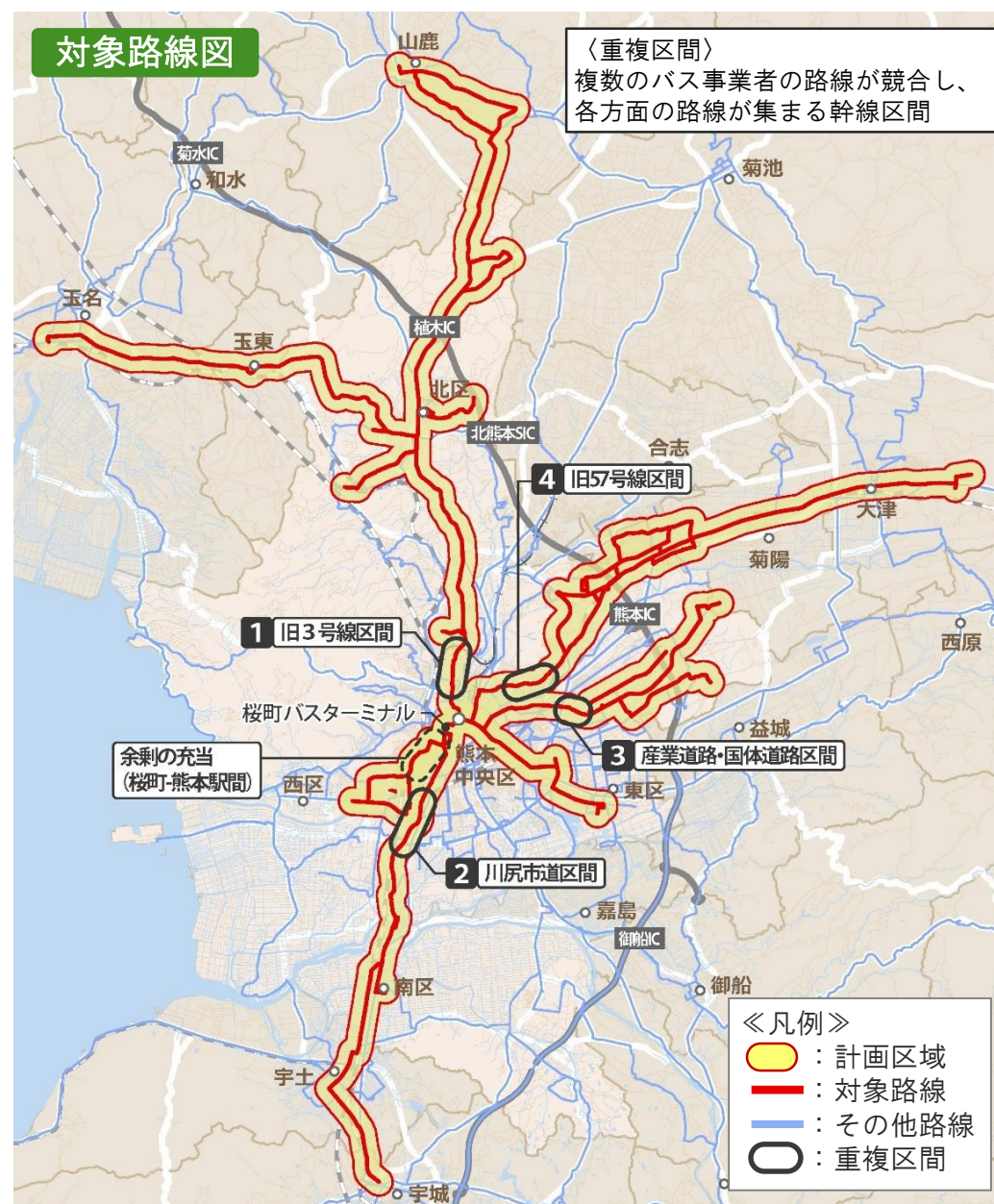
重複区間の効率化等により、収益性は約31百万円の改善、サービス維持に必要な人員5.6人/日・車両4.7台/日の軽減

②サービス提供維持の目標

利用者利便の水準を維持しつつ、対象55系統のサービス維持

実施期間

令和3年4月1日～令和6年3月31日までの3年間



2022年11月1日から開始

申請者

- (1) 九州産交バス(株) (2) 産交バス(株) (3) 熊本電気鉄道(株)
(4) 熊本バス(株) (5) 熊本都市バス(株)

実施期間

令和4年11月1日～令和7年10月31日までの3年間

共同経営の概要

① 県庁方面系統の最適化

- ・ 経路変更や廃止による輸送の効率化、
都市バス秋津健軍線の廃止➡九産交バス木山線の一部迂回で、
利便性を確保しつつ、効率化
- ・ 待ち時間の平準化〔県庁通り（砂取校前～北窪間）〕

共同経営の目標

① 収益性・効率性の向上

重複区間の効率化等により、**収益性は約24百万円の改善、サービス維持に必要な人員5人/日・車両4台/日の軽減**

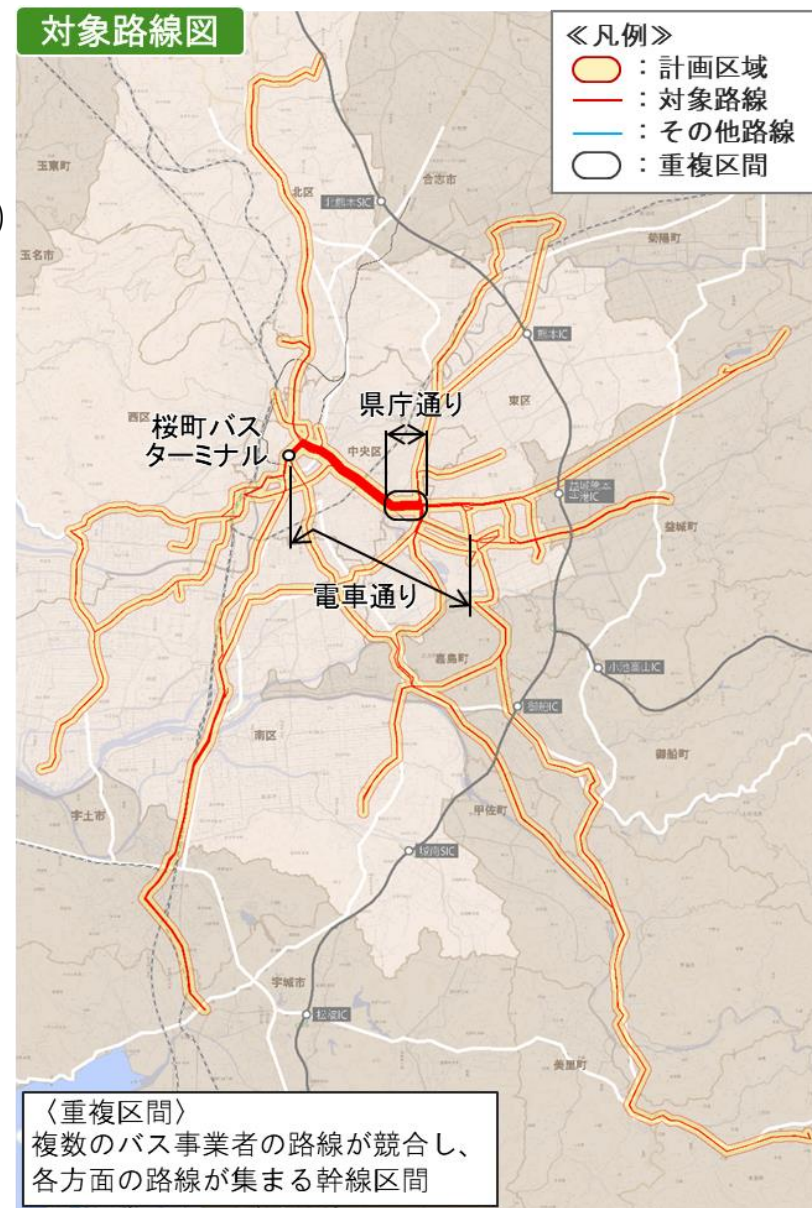
② サービス提供維持の目標

利用者利便の水準を維持しつつ、対象44系統のサービス維持

③ 労働環境の改善

輸送の効率化による余剰で、運転手の労働環境を改善しつつ、現行の輸送サービスを維持する

対象路線図



1 共同経営計画（2022年11月版）の詳細

4

■ 系統廃止及び経路変更拡大図



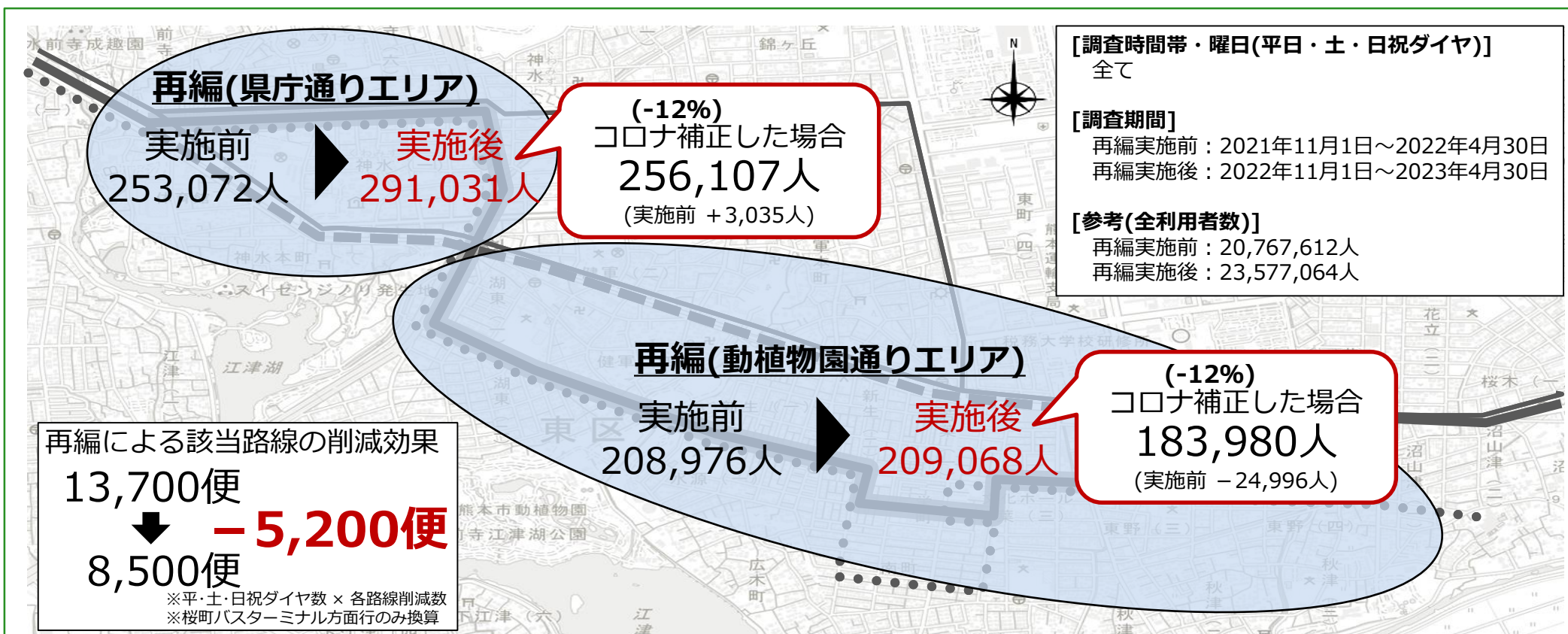
【改正前】

路線 (区間)	運 行 会 社	上 下	運 行 日	始 発 時 刻	終 発 時 刻	便 数	平均運行間隔時間 ^{注1)}				最大運行間隔時間 ^{注1)}			
							朝 ^{注3)}	昼 ^{注3)}	夕 ^{注3)}	夜 ^{注3)}	朝 ^{注3)}	昼 ^{注3)}	夕 ^{注3)}	夜 ^{注3)}
重複 区間	九州産交 バス ・ 産交バス ・ 熊本都市 バス ・ 熊本バス ・ 熊本電気 鉄道	上 り	平日	6:37	22:26	173 便	3 分	6 分	5 分	14 分	13 分	16 分	17 分	55 分
			土曜	6:38	22:26	129 便	6 分	6 分	7 分	19 分	18 分	17 分	21 分	55 分
			日祝	6:56	21:58	101 便	9 分	7 分	8 分	23 分	20 分	21 分	25 分	60 分
		下 り	平日	6:24	23:29	179 便	4 分	6 分	4 分	14 分	13 分	25 分	14 分	41 分
			土曜	6:33	23:29	133 便	7 分	6 分	6 分	16 分	33 分	16 分	17 分	41 分
			日祝	7:08	22:19	102 便	8 分	8 分	7 分	17 分	27 分	34 分	20 分	33 分

【改正後】

路線 (区間)	運 行 会 社	上 下	運 行 日	始 発 時 刻	終 発 時 刻	便 数	平均運行間隔時間 ^{注1)}				最大運行間隔時間 ^{注1)}			
							朝 ^{注3)}	昼 ^{注3)}	夕 ^{注3)}	夜 ^{注3)}	朝 ^{注3)}	昼 ^{注3)}	夕 ^{注3)}	夜 ^{注3)}
重複 区間	九州産交 バス ・ 産交バス ・ 熊本都市 バス ・ 熊本バス ・ 熊本電気 鉄道	上 り	平日	6:20 -17 分	22:26	166 便 -7 便	4 分 +1 分	6 分	5 分	15 分 +1 分	17 分 +4 分	14 分 -2 分	12 分 -5 分	45 分 -10 分
			土曜	6:38	22:26	128 便 -1 便	6 分	6 分	7 分	18 分 -1 分	15 分 -3 分	14 分 -3 分	15 分 -6 分	45 分 -10 分
			日祝	6:56	21:58	99 便 -2 便	8 分 -1 分	8 分 +1 分	8 分	21 分 -2 分	20 分	15 分 -6 分	20 分 -5 分	60 分
		下 り	平日	6:24 -1 分	23:28 -1 分	171 便 -8 便	4 分	6 分	4 分	15 分 +1 分	13 分	15 分 -10 分	14 分	36 分 -5 分
			土曜	6:33 -1 分	23:28 -1 分	129 便 -4 便	7 分	7 分 +1 分	6 分	17 分 +1 分	23 分 -10 分	14 分 -2 分	14 分 -3 分	40 分 -1 分
			日祝	7:08	22:19	101 便 -1 便	9 分 +1 分	8 分	7 分	18 分 +1 分	22 分 -5 分	19 分 -15 分	22 分 +2 分	31 分 -2 分

※待ち時間の平準化をした結果、県庁通りでの待ち時間が減少しました。



今回の再編により、各路線それぞれの程度影響があったのか同期間において対前年の乗降人員を比較した。利用者数の結果を単純集計したところ、動植物園通りについてはほぼ同数、県庁通りについては約3.8万人の純増となった。

ただし、コロナの人流回復分を補正(※補正值は上記凡例内の [参考(全利用者数)] より算出)し比較してみたところ、動植物園通りは減便したぶん多少の利用者減と表されたものの、県庁通りではそれでもまだ増加となっていた。

今回の路線再編では、便数の削減効果を生みながらも利用者数はほぼ変わらず、エリア全体としては利便性を落とさず効率化できたと考える。

1 共同経営計画（2022年11月版）の効果（アンケート結果）

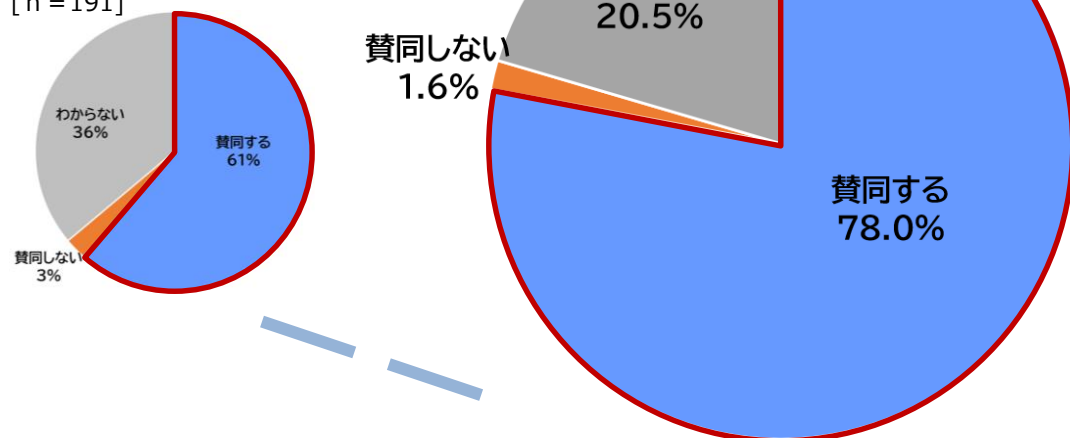
7

共同経営の取り組みの賛否については、前回アンケート結果と比較してもより上回る賛同数をそれぞれで得た。
また今回の再編対象路線のうち、特に減便や廃線が行われた箇所の利用者の回答に絞った結果であっても、便利に変化はないが、サービスが維持されている」が約半数と評価されている

「共同経営」取り組みの賛否

[n = 440]

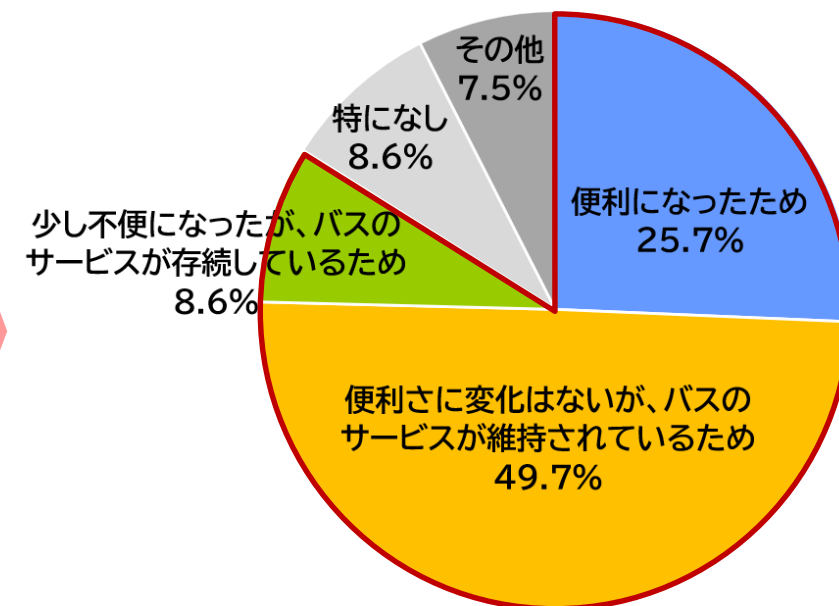
<※参考>
前回 R 3 年度
[n = 191]



賛同する理由

(※全数のうち、減便等再編対象路線利用者のみ)

[n = 187]



○アンケート調査方法

車内にポスターを掲示して、webアンケート調査への協力を依頼。
本件対象路線含む路線の利用者を対象とする旨を記載。

○被験者の回答方法

ポスター内に掲示されている3次元バーコードからwebアンケート調査画面にアクセスしてweb上で回答。

○調査実施期間と回答件数

期間：令和5年2月2日（木）～令和5年3月3日（金）
回答件数：459件（一般：255件，熊本県庁職員：204件）

2022年4月1日熊本県下全域 ICカードによる共通定期の実施

- IC定期券の区間内は、どの会社の路線バスでも（電鉄電車も含む）利用可能に。
- バス事業者間での乗継定期券のサービスも開始し、2枚必要だった定期券が1枚に。



2022年度の結果

2022年度の定期利用客数

コロナ回復効果

定期券以外の利用者伸び率

2021年度の定期利用者数

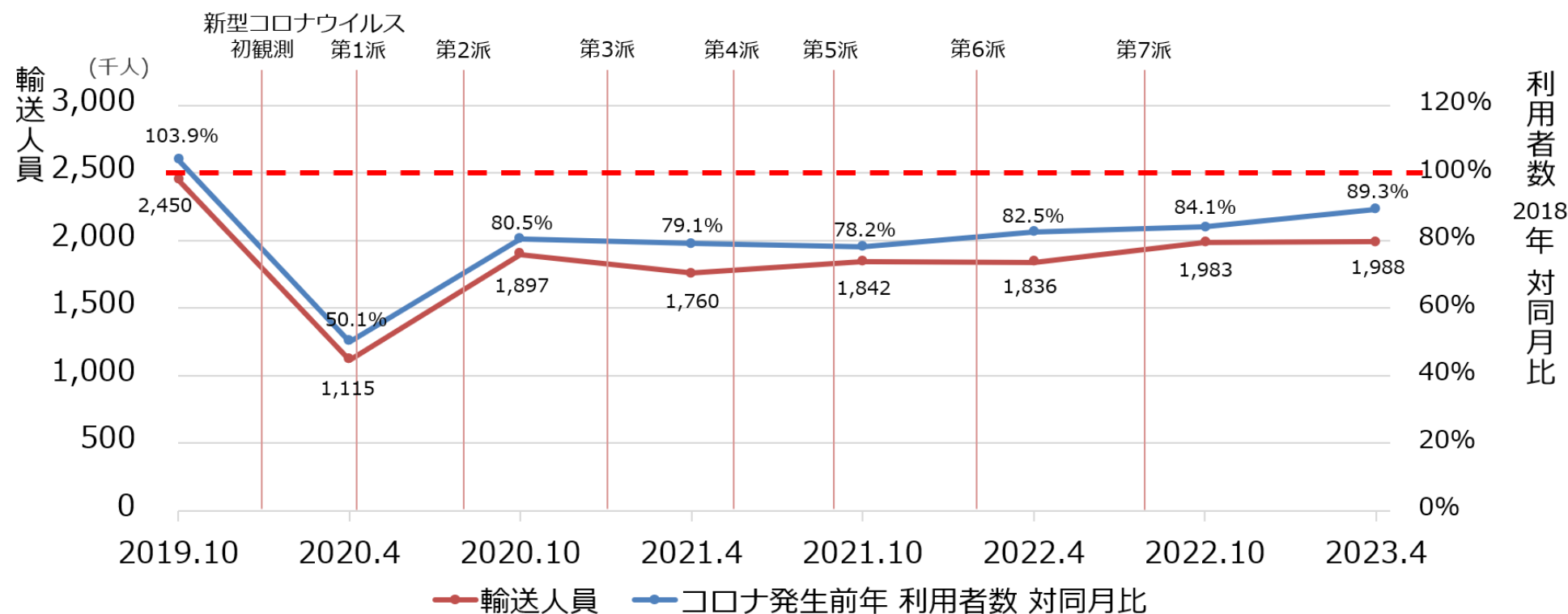
3,752,263人 ✕ 100/107 — 3,171,557人

＝ 定期券純増効果 **335,231人**

共通定期実施による定期券の純増効果は？

- ①定期券の輸送人員は2021年度と比較して2022年度は118%増加
- ②定期券の利用比率（定期券人員/全体輸送人員）は2021年度と2022年度は大きく変わらない
- ③SF・おでかけ・現金利用者数をトータルで見た場合、2021年度と比較して2022年度は増えており107%増加
- ④SF・おでかけ・現金の利用比率（SF・おでかけ・現金人員/全体輸送人員）は2021年度と2022年度は大きく変わらない

バス事業においては、人口減少等により輸送人員の減少が続いている状況にあり、平成に入ってからと比べても3分の1以下となっていたなか、サクラマチ開業効果による盛り上がりも束の間、新型コロナウイルスの影響を受け輸送人員が更に大きく減少した。コロナ発生前と直近月を比較すると徐々に回復傾向にはあるものの依然落ち込んでおり、未だ9割どまりとなっている。以上各種状況を鑑み、バス事業者としても新たな利用促進の取り組みを行うことが重要と考える。



今後は価値観やニーズが共通した4つのグループ(①通勤, ②私用, ③通学, ④高齢者)に分類し、それぞれにあったマーケティング手法を用いながら利用者を増やす取組を実施していく。

通勤：主に**公共交通を活用した渋滞緩和**に向けて活動中

2023年1月27日（金）セミコンテクノパークノーマイカーデー実証実験

運行内容：**公共交通を大幅拡充**

－既存公共交通機関

- ・JR 豊肥本線：朝時間帯3便増結
- ・セミコン通勤バス：21 便→30 便

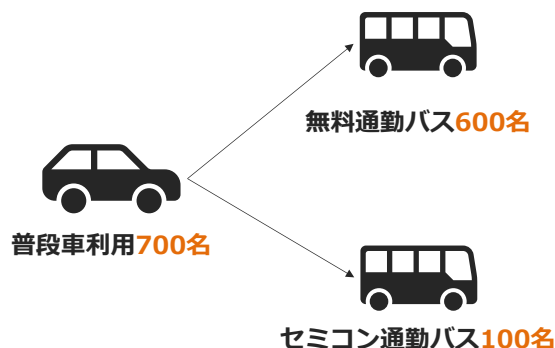
－新規無料通勤バス

- 熊本市東区ルート：16 便
- 合志ルート：11 便
- 光の森ルート：12 便
- 大津ルート：9 便

車から公共交通への転換事前見込み

事前アンケートから目標800人に対して700人期待

※参加希望、未定だが参加希望と回答した方



無料通勤バス	朝	夕
合志ルート	34人	30人
光の森ルート	54人	53人
熊本市東区八反田ルート	28人	26人
熊本市東区日赤ルート	55人	46人
大津ルート	35人	27人
合計	206人	182人

※206人の内、車からの転換者は153人

セミコン通勤バス (既存交通機関)	朝	夕
	453人	281人

※453人の内、車からの転換者は46人

車1割削減（朝ピーク800台・人）を狙っていたが…
事後アンケートより車からの転換は199人と推計され厳しい結果に



★調査分析より

①公共交通利用の**満足度は高い (81%)**

②車利用含めて**渋滞対策として公共交通拡充意向は高い (83%)**

③公共交通転換という行動変容はハードルが高く渋滞緩和へ至らず

今年度は**県が公共交通を活用した渋滞対策として新たな通勤バス実証運行を3ヶ月程度実施予定**
通勤バスの実装に向けて**共同経営推進室**としても昨年度の知見を踏まえて連携していく予定

通学：バス通学の利用促進活動

協力	熊本県内 2 高校
目的	バス通学に関する情報を積極的に提供することで、毎日の通学においてバス通学を利用する方が増えるように、また、日常利用者以外でも、荒天時や傷病時にすぐバス通学ができる状況にしておく。
方法	熊本県内 2 つの高校の 合格者説明会 にてブースを設置し、バス通学に関する相談を承る
配布物	チラシ、定期券申込書（特別版）、路線図、など
備考	本イベント用の通学定期券申込書を配布。・・・・・・（本券による申込数：65名） ※2023年5月集計 2校合計 →「入学/通学証明書」の発行/提出の簡略化 個人ごとに時刻表を印刷 各バス会社と連携した問い合わせ対応



A高校(熊本市内, 公立)
[3月17日(金) 実施]

対応数 入学者362名中
160名程度



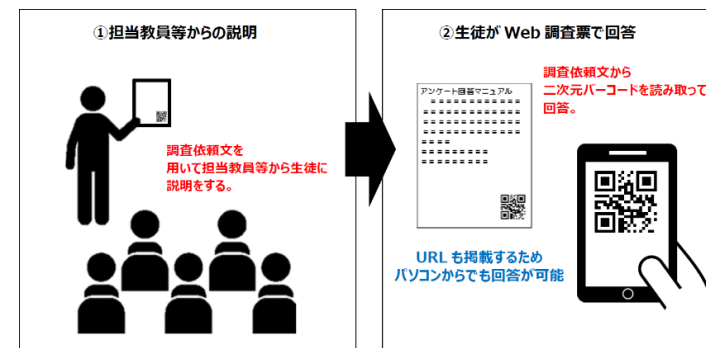
B高校(熊本市外, 公立)
[3月24日(金) 実施]

対応数 入学者約120名中
40名程度

主な問い合わせ内容

最寄りバス停からの直行の有無、本数、乗継について
雨天時の手段（通常は自転車通学予定）
My 時刻表は大きな反響

同時並行して
在校生および
その保護者へ
アンケート



(4) 【問2(4)】通学に関するの配車や悩み事

・通学に関するの配車や悩み事では、「自転車や徒歩での交通手段」が57.1% (92人) と最も高く、次いで「バスや電車の通学がなかなか」が36.6% (59人) と続いている。



図 通学に関するの配車や悩み事

表 通学に関するの配車や悩み事
【問2(2)】【問3(2)】通学時のバス利用の意向

・通学時のバス利用の意向では、「バスを利用しない」が40.7% (66人) と最も高く、次いで「バスを利用したいが、乗継が難しい」が32.3% (52人) と続いている。



図 通学時のバス利用の意向

アンケートにより、保護者様からの「今はバスを利用していないが実は利用させたいと思っている」というお声が一定数ある事などもわかりました。

今年度以降活動予定

本活動の学校数をさらに増やす
夏のオープンスクールにてチラシ配布等による周知活動

私用（買い物、おでかけ等）

【2022年度の取り組み】

- 発地側目線の利用を促す情報提供の実施（戸別訪問）
- MY時刻表の試験配布
- 目的側と連携した利用促進活動（2団体と協力）
- 1日限定100円の日・無料の日 計4回実施



壁・掲示板・冷蔵庫に

ご自宅
から

よく行く
所へ

貼ってください！

バスロケ
連携

大江川鶴 → 桜町バスターミナル											
所要約 17 分 (経路・時間帯・交通状況により前後します)											
下線細字：所要時間が長い便です											
時	平日 (2023/03/06)					土曜 (2023/03/04)			日祝 (2023/03/05)		
06	48 F1-2	53 F2-3/S4-3	57 F3-2			58 F2-3/S4-3			47 F1-2	55 F2-3/S4-3	06
07	10 F1-2	31 F1-2	34 F2-3/S4-2	35 F3-2	56 F1-2		2 F1-1	45 F2-3/S4-3	37 F1-2		07
08	00 F2-3/S4	産交 F3-2	36 F2-3/S4-1	都市 F1-2	バス F2-1/S4-3		0 F2-1/S4-2	42 F3-1	05 F2-3/S4-3	07 F1-2	08
09	04 F2-1/S4-1	00 F1-2	31 F1-2	31 F2-3/S4-3	41 F1-2		3 F2-1/S4-2	40 F1-1	05 F3-1	07 F1-1	09
10	06 F2-1/S4-2	29 F1-2	42 F2-3/S4-3	48 F3-1	59 F1-2		00 F3-1	08 F2-1/S4-2	08 F1-1	10 F3-1	10
11	06 F2-1/S4-1	29 F1-2	41 F2-3/S4-3	48 F3-1	54 F1-1		08 F1-1	08 F2-3/S4-3	08 F1-1	24 F3-1	11

5社の
全路線
まとめて

2023年度の活動

- ・目的側と連携した、利用促進の強化
- ・MY時刻表の一般公開



高齢者：利用のハードルを解消するため市・県警・地域と協働による「バスの乗り方教室」を実施し外出機会を創出、バス利用の促進を図る

乗り方教室内容>既存イベントへブース出展しバスの乗り方教室・サービスを案内



「東区民まつり」

日時：令和4年11月26日

内容：MY時刻表の配布

バスきたくまさん、
路線の案内

人数：約50人



「交通安全教室」

日時：令和5年1月～3月

内容：バス停・時刻表の見方

ICカードの使い方

おでかけICカードの案内

人数：約750人（計17回参加）



「第一回バス・スマホ教室」

日時：令和5年5月18日(木)

内容：バス停、時刻表の見方・ICカードの使い方

おでかけICカード、バスきたくまさん、路線の案内

カメラ機能・LINEの使い方

人数：15人

【連携】ささえりあ江津湖・ソフトバンク



【共通した課題(声)】

HP等WEBでも案内しているが、**スマートフォンの使い方が分からない**ため情報を取得することができない。

【課題解消】

バス車内で**バス・スマホ教室を協働開催**することで関連付けた複数の情報が提供でき参加者にも多くのメリットを創出。

今年度は他地区でバス・スマホ教室を水平展開。連携先を増やし**高齢者の外出機会やメリットを創出しバスの利用促進**活動をおこなう予定。

熊本地域における公共交通ネットワークの利便性・生産性を最大限向上していくため、県内バス事業者5社が企業間の垣根を超えて、取組みを実施していく。

1 路線バス利用者増に向けた取組実施及び推進

2 バスの運行時分適正化と効果検証

3 路線バスのデータ公表

その他、
バス5社の垣根を越えて連携するだけでなく、
鉄軌道、タクシー等の他モードとも連携し、
将来にわたり持続安定的な公共交通を構築していく。



共同経営事業を着実に進め、県民市民の皆さんの移動手段の確保に努めていく